

議 事 録

会議名	令和５年度 第１回三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議議事録
日 時	令和５年６月６日（火） 午後７時００分～午後８時３０分
会 場	三鷹市教育センター 第二中研修室
出席委員	【委員】 神崎恒一、菊池健、望月論、名古屋恵美子、斉藤貴彦、上遠野範子、道三啓吾、服部将志、望月謙治、谷川由香 ＜定員数 11 人中 10 人出席：有効＞
事務局	健康福祉部調整担当部長、高齢者支援課長、他事務局２人
会議の 公開・非公開	公開
傍聴人数	０人
１ 開会 【健康福祉部調整担当部長隠岐より挨拶】 令和２年度から活動を始めた本会議も４年目を迎える形となった。今までの活動に感謝したい。認知症高齢者の増加が見込まれる中、地域共生社会の実現を目指すにあたり、本会議による支援策の検討が、これまで以上に重要になってくると考える。引き続き忌憚のない意見を頂きたく、よろしくお願いしたい。 【職員の異動の紹介及び事務局からのお知らせ】 ・ 高齢者支援課担当課長鈴木、相談係谷川より挨拶 ・ 議事録の作成と公開について ・ 本日の配付資料の確認	
２ 議題 (１) 三鷹市における認知症施策の検討 ア 三鷹市高齢者計画・第九期介護保険事業計画策定のスケジュール 三鷹市高齢者計画・第九期介護保険事業計画の策定に向けて、令和５年５月から令和６年１月までに６回の会議を開催し、骨格案を９月上旬、素案を１０月下旬頃を目途に作成し、１２月中旬から年明けの１月中旬の間にパブリックコメントを実施する。本会議も第２回目を１０月上旬、３回目を２月上旬に開催予定である。 イ 令和４年度三鷹市高齢者の生活と福祉実態調査報告 令和４年度三鷹市高齢者の生活と福祉実態調査報告から認知症に関連する項目を谷川委員より説明を行う。認知症の相談窓口について知っているが１７．３％であり、要介護度が上がるほど知っている方が多い。認知症についての講座を受講したことがある方は１１．３％、受講したい方は２４．５％であった。 認知症に対する意見としては、認知症になってもその人の意思を尊重できると考えている方が６０．８％、自分が認知症になったら周りの人の手を借りながら自宅での生活を続けたい方が５８．５％であり、講座の受講経験のある方は未受講者に比べ、双方の意見が高い傾向にあった。 認知症ガイドブックの認知度については、持っている方が４．５％、知らない方が７５．５％であった。認知度別にみると要介護３～５の方の１３．８％が持っているが、全体的に認知度が低い。認知症に対する正しい知識を得ることの重要性を周知し、講座への参加を促進するための啓発活動の取組が必要である。 結果の概要と今後の課題として、要介護度が高くなっても在宅生活の継続を望む傾向が見られる中、介護の側面から見ると、認知症への対応と夜間排泄の２つを軽減していくことが出来るかが重要なポイントになってくると考えられる。	

(ア) 委員からの意見

委員 委員 事務局	ガイドブックの認知度が低い。配布の仕方に工夫が必要だろう。 ガイドブックの配布場所はどこか。 包括支援センター以外には病院や薬局、信用金庫にも置いている。 65 歳以上の全世帯に一律配布するという様な予算組はしていないのが現状である。
委員	当事者が相談に来ても気を遣って渡せない場合もある。一律に配布してしまえば良い、という意見には一理ある。
委員	ガイドブックの良さが口コミで広まってくると、認知度も高まるのではないだろうか。本ガイドブックは様々な情報が入っているが、対象が明確ではない。認知症は高齢者だけのものではない。 また当事者のニーズは様々なので、内容を細分化して対象者にフォーカスした様な物ができると良いのかもしれない。
事務局	本ガイドブックは PDF で掲載している。e - book という機能があるので、そこに掲載していくのも良いかもしれない。
委員	認知症当事者の具体的な対応事例なども掲載するとなると膨大な量になる。
事務局	認知症の初期の段階で知識を得ることも大切。診断を受けることにより利用できるサービス等があれば早期の受診に繋がるかもしれない。 本ガイドブックに関しては助言を頂きながらブラッシュアップしていきたい。認知度を高めていくためにチャンネルを増やしたり、より早い段階での啓発という点も検討していきたい。

ウ 三鷹市における認知症施策

市の認知症施策の柱である①地域の連携による認知症高齢者への支援（医療との連携）、②認知症高齢者を支えるサービス体制の充実（通いの場等）、③認知症の当事者とその家族への支援（認知症への理解の推進）、について説明を行う。

①について委員から地域資源の充実についての説明があり、市からも、多摩若年性認知症総合支援センターと意見交換を行った旨を報告した。

②については、認知症対応型共同生活介護事業所（認知症グループホーム）の公募を行ったことを報告した。

③については認知症啓発を担ってきた認知症にやさしいまち三鷹（認まち）事務局会議にてオレンジプランを更に充実させていくために今年度より開催頻度を増回していくこととした。また、コミュニティ・ガーデンの活動報告を行う。

(ア) 委員からの意見及び質疑応答

委員 事務局	市内の認知症グループホームの数について 現在市内には8つ。地域的な偏りもあり、令和6年3月に大沢地区に開設を予定している。
委員 事務局	市内の若年性認知症当事者について市は把握しているのか。 市としては把握していないのが現状である。
委員	健康診断の際など気軽に認知症の検査を受けることが出来れば早期発見につながるのではないだろうか。
委員	健診の検査項目を増やすなどしなくても、質問項目を増やして、医師から「物忘れが気になるなら、包括への相談をしよう」と勧めてもらうだけでも違うのではないか。認知症だけではなく、介護保険の認定にも繋がらない方もいるので。
委員	行方不明高齢者探索ネットワーク事業はガイドブックに掲載がない様子だが、追記する予定はあるのか。

事務局 委員	次回の改定時に追加を検討します。
事務局	認知症推進員が市に1人だが、増員が難しいのであれば地域資源を活用していくという事も可能かと思う。 介護予防の自主グループなど既存の地域資源をチームオレンジとして展開することなども、検討していきたい。認まち事務局会議が市と包括間で認知症施策について議論をする場として活用していくことになると考えられるため、本会議との関係性も整理していきたい。
3 その他 - 令和4年度から各包括で認知症サポーター養成講座を開催しているが、比較的若い世代（40～50代）の参加が見られる。 - ゲームのやり過ぎで認知症になる可能性がある、と話題になっている様だ。インターネットゲーム等を規制しようという意見も出ている様だ。 - 最近では中学行でも精神疾患について教科書で触れているようだ。子供ではなく孫の世代に啓発していくことも大切かもしれない。	

議事録署名委員

令和5年9月28日 杏林大学医学部高齢医学 神崎 恒一

令和5年10月4日 三鷹市西部地域包括支援センター 服部 将志